

ホームステイ交流 ～ますます広がる交流の輪～

8月20日(水)から26日(火)の7日間、国際的な相互理解と人材育成などを目的に、中学2・3年生15人が、アメリカ合衆国オハイオ州ライマ市を訪問しました。訪問先ではホストファミリーや市民の温かい歓迎を受け、交流の輪を深めました。

▶問い合わせ
企画グループ ☎079(435)0356



▲播磨町から贈ったシダレザクラが、ライマ市で大切に育てられています



ライマ市は、面積20km²、人口約38,000人の自然豊かな都市です。平成8年、相互の訪問をきっかけに交流を深め、平成11年3月に姉妹都市提携を結びました。



▲博物館で説明を受ける訪問団



▲フットボールスタジアムVIP席

コロンバスツアー
ライマツアー

2日目は、訪問団全員でオハイオ州の州都であるコロンバス市を訪問しました。コロンバス市ではオハイオ大学のアメリカンフットボールスタジアムやサンタマリア号などを見学しました。翌日は、ライマ市役所や公園、病院、図書館など市内の公共施設を見学しました。



▲歓迎会で歌を披露する訪問団



歓迎会

ライマ姉妹都市協会のメンバー宅で催されたガーデンパーティーには、ホストファミリーやこれまで播磨町を訪問した方々が数多く集まり、にぎやかなパーティーとなりました。初日は緊張していた訪問団メンバーもすっかり打ち解けて楽しいひと時を過ごしました。

訪問団は最後に、訪問前にも何度も練習してきた「上を向いて歩こう」を歌い、ジョセフ彦の劇を英語で披露しました。

ホームステイ

訪問団は、11のホストファミリー(受け入れ家庭)に分かれ、家族の一員として5泊のホームステイを経験しました。初日の対面式では、緊張する訪問団員でしたが、ライマ姉妹都市協会のメンバーやホストファミリーの温かい出迎えを受けて、それぞれのホスト宅に向かいました。

言葉の壁、文化の違いに戸惑うこともありましたが、ホストファミリー宅では、家族の一員として普段の生活を体験し、家族とショッピングやアレン郡のお祭りへ出掛けたりして、それぞれの家庭で楽しく過ごしました。



▲ホストファミリーとの対面式

参加した中学生の感想

異文化にふれて感じたこと

泉村 悠衣さん

アメリカに来て最初に感じたことは、とにかく何もかも広くて大きいということ。普通の道路も日本と比べると何倍も広いし、家の大きさも日本では考えられない程、大きいものばかり。駐車場も日本では縦に大きく長いけれどもアメリカでは横に広い。日本との違いをすぐに感じました。

人との交流を通じて、似ているけれども違うアメリカ人と日本人という人種の違いが見えてきました。まずはあいさつです。日本では知っている人同士でしか「おはようございます」など言わないけれども、アメリカでは目が合うと知らない人同士でも気軽にあいさつをします。そこが違うなと思いました。またアメリカにいたるとき、大勢のアメリカの人たちの前で出し物として寸劇をさせてもらったのですが、その劇の中でクイズを出しました。すると日本では

きて本当によかったです。そして外国の生活に解けこみながら、客としてではなく、家族として接してもらい、手伝いもしました。これらのおかげで、自分が目標にしていた「自分をみがく」を少し達成することができました。英語の勉強という課題は、これからがんばっていきたいと思います。ぼくは今、ライマ市訪問に、かかわっていただいた方々全員への感謝の気持ちでいっぱいです。どうもありがとうとございました。

言葉を越えたつながり

草部 篤司さん

約1週間のライマ市訪問の体験は僕にとって一生忘れることの出来ない思い出となりました。

飛行機に乗り、長いフライトを終え、いざお出迎えのバスに乗ってみるとなんと、ハンドルの位置が日本と逆。「ソウいえばアメリカは左ハンドルだったなあ」とちょっとした文化の違いに驚かされました。バスに揺られること3時間。ホストの方と初対面です。その時、僕は体の大きなホストファミリーを見て「ちゃん

と1週間過ごせるかなあ」という不安な気持ちと、「これらの英語ばかりの生活が楽しみだ」という半ば挑戦的な気持ちが入りまじっていました。ですが、ホストファミリーはとてもフレンドリーで不安な思いなどはすぐに消えなくなりました。

今回、この旅行で最も感じたことは、「人と人とは国境や言葉の壁をこえて愛しあえる」ということです。僕はアメリカへ行ったことで、物事を多方面から見ることが少し出来るようになった気がします。

ライマ市訪問を終えて

武田 成美さん

アメリカに行って私が強く感じたことは、アメリカの人々のフレンドリーさです。全く知らない人でも、歩いていて目が合ったら「ハイ！」と声を掛けてくれたりしました。それに、何よりホストの方の待遇です。初めてあった日から、すごく親切で色々なことを教えてくれて、私が喋った英語が通じない時でも、「もう一回言ってみて!」と、なんとか私の下手な英語の発音を聞きとってくれました。ポ

珍しいほど多くの人が手をあげて答えを言ってくれ、クイズを出したときのその盛り上がりはすばらしいものでした。日本でやるとしたらける場合もあるクイズがアメリカでは大盛り上がりでした。そういうところからも違いがみえてきました。

ライマ市訪問を終えて

江頭 侑樹さん

最初はいやいや、やっていったジョセフ・ヒコ役も今となってはとても良い思い出です。また、「感謝」という言葉を改めて考える良い機会になり、今年の1学期はとても充実したものになりました。一生に一度になるかもしれない貴重な体験をすることができました。

ーリングに行った時に、びっくりしたのは、男の子も女の子も関係なくボディタッチが多かったことです。ピンを倒した後のハイタッチは当たり前で、ハグとかも普通でした。「日本では、ないやろ」と思ったけどそういう所もフレンドリーで「アメリカらしいな」と思いました。帰りのデトロイト空港で帽子をかぶっていたときに、前から同じような帽子をかぶったおじさんが歩いてきて「ナイスハット!」って言われた時とても「この感じ、いいなあ」と思いました。そんな良い体験ができたので帰るときは本当に「帰りたいなあ」と思いました。この1週間が私に与えた衝撃は計り知れません。「日本の常識が通用しないんだ」と思い知らされることも多々ありました。是非これからもっと勉強して、色々なことを身につけて、もう一度行きたい!と思っています。いろいろな人のおかげで、私は今回こんなに良い経験をさせてもらうことができたので今回の経験を決してムダにしたくない、と強く思いました。

公式訪問団 報告

8月20日(水)から26日(火)まで、播磨町が姉妹都市提携を結んでいるアメリカのオハイオ州ライマ市を、播磨町議会杉原議長と共に播磨町公式訪問団として訪れました。市役所ロビーや図書館入り口などには、播磨町ゆかりの品や写真が数多くディスプレイされていました。

姉妹都市提携締結後、来年で10周年を迎えますが、毎年ライマ市から、また播磨町から青少年や国際交流協会の会員が相互に訪れ友好を深めてきました。一昨年にはライマ市のバーガー市長をはじめとするライマ市公式訪問団が播磨町に来られました。

私たちは、今回の訪問でライマ市のいろいろな施設を視察し、その運営方法、ライマ市政の仕組み、市民との関わりなど多くのことを学んで帰ってまいりました。私たちが得た知識と感動、そしてライマ市の温かい「おもてなしの心」をご報告いたします。



▲セントリタ病院



バーガー市長と市長室にて▶

セントリタ病院

ライマ市を代表する病院。以前からは非お見せしたいと言われていたライマ市ご自慢の総合病院です。日本の病院とは大きく異なり、玄関を入るとまるでホテルのロビーのような雰囲気、消毒薬や薬のにおいは全くなく、受付の人がにこやかに出迎えてくれます。玄関横にあるステンドグラスの礼拝堂は市民の寄付により建設されたもので、いろいろな宗教に対応でき、入院患者や家族の心のよりどころとなっております。普段は立ち入ることのできない手術室にも、頭からすっぽりかぶる紙製の服を着て入れていただき救急体制などについて医師から説明を受けました。



ここでは医師不足もなく救急患者もすべて受け入れる体制がとられています。病院内は広々としていて、病室も広く個室で、医療器具はキャビネットなどに収納され、壁に取り付けられた大画面のモニターはパソコンに入力された容態や検査結果情報などを患者と医師が共有し、家族への説明にも利用されます。患者や家族との信頼関係の構築や配慮が十分になされていると感じました。他に患者への配慮としては調理もできる家族室や散歩ができる花いっぱい屋上庭園、ギフトショップ、コーヒーショップ、医師や市民も利用する様々な料理が選べる大きなカフェテリア、健康書を扱った図書館、最高級ベッドと設備を完備した不眠症治療の病室、地域の人々から寄贈された芸術品がセンスよく飾られた廊下や通路など心配りの行き届いた素晴らしい施設でした。さらに感じしたのは、この病院では多くのボランティアが働いています。ボランティアの中には貧しくて治療費が払えなかった方たちもいて、奉仕することでの救済というシステムもあるそうです。

ライマ市立図書館

入り口の飾り棚には日本のお人形や小物などが、きれいにディスプレイされています。また、今年6月に来られた訪問団にお贈りした日本の帯がケースの中で美しく結ばれて飾られていました。異郷の図書館で日本以上に日本らしい光景に出会い、播磨町と

の交流を大切にしていただいでいることに感激しました。この図書館では拡大文字の図書が貸し出しや絵画など美術品の貸し出し、亡くなった方の蔵書を貸し出すメモリアルコーナーなども設けられ、いろいろなニーズに応えられる試みがなされていました。多くの市民が利用されていますが、重厚で落ち着いた雰囲気は、市民の静かな憩いの場という印象を持ちました。

ライマ市役所

議場で、バーガー市長から市の幹部(議長、警察署長、消防署長、人事部長、コミュニティ担当部長、公園管理者、上下水道管理者など)が紹介



され、ライマ市の行政運営について説明を受けました。市役所は一般のビルの中にあり、行政窓口がありません。住民票や証明書などの発行業務もないとのことでした。議員は7人で議場も質素でした。議会や行政組織のシンプルさは、行政の努力と共に市民の理解が不可欠であると感じました。市民が行政に完璧を求めれば複雑化、肥大化してしまうことになり市民意識の高さを感じました。

教会

市の中心部にある400年の歴史を持つ教会で貴重な体験をさせていただきました。多くの市民が参加するミサの中で神父さんから私たちを紹介していただき、賛美歌や祈りが捧げられる荘厳な雰囲気味わうことができました。日本では考えられないことですが、教育長が壇上で牧師さんと教育論を語ったり(先週は市長との対話であったとか)、子どもたちが親と共に聖書を授けられたり、転居する人の無事を祈ったり、教会の支えで病気と貧困から立ち直った人の回復を喜んだり、みんな

で人々の幸せを願う慈愛の精神が教会を中心に根づいていると感じました。ボランティアや献金といったことを幼い時から経験する機会が教会活動の中にあり、成長の過程で人間愛の精神が培われていくことに教会が大きな役割を果たしているようです。



ライマシニア高校

3年前に建てられた最新で充実した設備を備えた高校を教育長自らが案内して下さいました。教科ごとに専門的な設備を完備した教室やホール、体育室などがあり、在学中に各種の職業訓練的なことも身につけられるような配慮がなされています。建設については州政府が8割を負担し、残りの2割を市が負担するということ。是非を住民投票で市民に問い、多数決で立替えが決定さ

オハイオ州立大学

2年制と4年制の2キャンパスを案内していただきました。どちらも卒業後の職業のためのかなり専門的で高度な技術が習得できるようにしています。授業の内容や設備



れたということ。事業の有無を住民自らが選択し、税負担も含めて一緒にその責任を負っていくというシステムにアメリカ民主主義の一端を見たような気がしました。そのような成り立ちから高校も努力をされています。広くゆとりのある校舎は冷暖房も行き届いていて、快適に学習が行われる環境でうらやましい限りでした。

最後に

今回の訪問で、公式訪問団と青少年訪問団は、バーガー市長始めライマ市国際交流協会やライマ市民からどれほど多くの熱烈的な歓迎と温かいもてなしを受けたことでしょうか。現地のラジオ、テレビ、新聞でのインタビューにもコメントさせていただきましたが、国や人種、言葉が異なっているにもかかわらず、お互いを理解し尊重し愛することができるといふことをつくづく実感いたしました。日本を、そして播磨町を外からみることで改めて気づいたものを、これからの町政運営で活かしていきたいと思っております。

播磨町長 清水いろ子